

東部丘陵

生態系ネットワーク協議会

生態系をつなぐために
みずから考え
行動する人を育てる

Eastern Hills

名古屋市、瀬戸市、春日井市、豊田市、尾張旭市、豊明市、日進市、みよし市、長久手市、東郷町

東部丘陵生態系ネットワーク協議会は、2011年(平成23年)3月に設立されました。大学が中心となって、住民や事業者、行政と協力しながら、ハード的な(実際に生態系をつないでいくための)取組とソフト的な(所属団体が知恵を出し合う)取組の両面からモデル事業などを進めてきました。

協議会テーマ
23大学が先導する、
ギフチョウやトンボの舞う
まちづくり



地域の生態系

シデコブシ、
ハッチョウトンボ、
ギフチョウ、
シラタマホシクサ



東京大学附属演習林でのカレッジ



矢並湿地でのカレッジ



八竜湿地



大日本印刷株式会社名古屋事業所内の
ビオトープ



二村山緑地でのカレッジ



東谷山でのカレッジ

東部丘陵地域の自然環境

名古屋市の東部から春日井市、瀬戸市、豊田市にかけて丘陵地が広がっており、この一帯を「東部丘陵」と呼んでいます。この地域はかつて大部分がはげ山で、生物多様性が低下し、土砂崩れなど災害が発生することもありましたが、社会情勢の変化もあって、現在は樹林地が広がっています。また、丘陵地は河川の上流部を形成しているだけでなく、湧水湿地やため池が点在し、湧水湿地には東海丘陵要素植物群とよばれる、東海地方の湧水湿地に特徴的な植物も生育しています。一方で東部丘陵地域は都市部に近いことから、開発が進んで貴重な生きものが減少したり、生育・生息域が分断されたり、外来種が増加したりするなどの問題も生じています。

都市に浮かぶ島をつなげて、 生きものを守る

東部丘陵地域では、都市化が進んだ区域の中にも、孤島のように自然環境が残っているケースもあります。しかし、他の場所との生きものの往来が困難になって孤立してしまっているため、生態系としては危うい状態と言えます。そこでこの地域には大学が多く立地することから、大学のキャンパス内の生物多様性を向上させて、孤立した生態系をつなぐ存在にしていこうと始まったのがこの協議会です。当初は大学でのビオトープの設置や整備からスタートしましたが、近年は協議会に加入した企業の敷地内でもビオトープの設置が行われています。

あいち自然再生カレッジを通じた 普及啓発活動

当協議会では、構成メンバーである大学・企業・自治体などが相互に協力しながら、一般市民を対象にした普及啓発にも取り組んでいます。それが「あいち自然再生カレッジ」で、協議会の目標の一つである「生態系をつなぐために、みずから考え、行動する人を育てる」を具現化させるための活動です。地域住民、NPO、学生、行政の担当者など、さまざまな方々が参加しており、リピーターの方も多くおられます。また近年は、将来を担う若い世代が生物多様性に関心を持ってもらえるよう、親子で参加しやすい講座も用意しています。

【構成団体一覧】43団体

<大学等 23>
愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、金城学院大学、椋山学園大学、中京大学、中部大学、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学・名古屋学芸大学短期大学部、名古屋工業大学、名古屋産業大学、名古屋商科大学、名古屋市立大学、名古屋大学、南山大学、名城大学
<企業等 6>
三五コーポレーション(株)、生活協同組合コープあいち、東邦ガス(株)、大日本印刷(株)、練堀商店、側島製罐(株)
<NPO等 3>
国際ロータリー第2760地区社会奉仕委員会、(NPO)愛知環境カウンセラー協会、(NPO)海上の森の会
<行政機関 11>
名古屋市、瀬戸市、春日井市、豊田市、尾張旭市、豊明市、日進市、みよし市、長久手市、東郷町、愛知県

<おもな活動>

- ・あいち自然再生カレッジの実施
- ・大学や企業の敷地内ビオトープの整備
- ・里山や湧水湿地の保全